

銅センターニュース

日本銅センター 定時総会開催

日本銅センターでは、去る五月二十一日および六月二十六日に東京、銀座東武ホテルにおいて定時総会・臨時総会および理事会を開催し、左記の通り役員を選任した。

- 新任 会長 大木和雄
(日鉱金屬(株)代表取締役社長)
- 新任 副会長 古河潤之助
(古河電気工業(株)代表取締役会長)
- 新任 副会長 石原廣司
(古河電気工業(株)代表取締役社長)
- 新任 専務理事 横井弘明
(日本伸銅協会専務理事)



総会

第30回日本銅センター賞表彰式

日本銅センターでは、去る五月二十一日、東京、銀座東武ホテルにおいて第三十回日本銅センター賞の表彰式を行った。受賞者は次のとおり。

- 社団法人日本電線工業会 電線工口
ジ-推進委員会
- 件名 EM 電線・ケーブル
前澤工業株式会社 埼玉製造所
- 件名 鉛レス銅合金のハルブ部品への適用
新日本製鐵株式会社 技術開発
発本部環境プロセス研究開発
センター 尾松保彦
- 株式会社戸畑製作所 代表取締役社長 松本和朗
- 件名 圧延銅板を使用した銅スチープの製作
ファイネクス株式会社 代表取締役社長 松田登
- 件名 コネクタおよび半導



日本銅センター賞 授賞式

体向けピン材料分野における伸銅品の需要拡大と促進
ロム株式会社 ロム・メカテック株式会社
件名 リードフレーム用銅合金の普及と発展
株式会社日建設 大阪オフィス
件名 建築設備設計において永年
にわたり建築用銅管を採用して銅
管の普及活動に貢献

「福島敦子のトップに聞く」 (サンデー毎日)に日本銅センター 会長大木和雄氏登場

「サンデー毎日」(2003.7.27)の人気企画「福島敦子のトップに聞く」に日本銅センター会長大木和雄氏とTVキャスターとして有名な福島敦子さんの対談記事が掲載された。この対談企画には以前、ヴァージングループ会長リチャード・ブランドソン氏やトヨタ自動車社長張富士夫氏が登場するなど、企業や団体のトップなど著名な人物が登場している。対談では、銅の歴史や、緑青への誤解、抗菌作用から将来の可能性まで、古くて新しい銅の魅力について語られ、発行後は多くの反響が寄せられた。



対談雑誌表紙

銅管ヘッダー工法に注目あつまる 管工機材設備総合展 (東京、大阪)に出展

去る八月七日、九日、東京ビックサイトにおいて、第三十五回管工機材設備総合展が開催された。日本銅センターは、この展示会に出展し、「銅管ヘッダー工法」を中心に銅管の優位性をアピールした。今展示会には、前回を上回る二万六九六人が来場し盛況となった。
また九月十一日、十三日、第十一回管工機材設備総合展 OSAKA 2003 がインテックス大阪で開催された。日本銅センターでは、この展示

進化する住まいに 銅の魅力をアピール 札幌住環境フェアに 出展

去る七月七日、二十日、札幌コンベンションセンターにおいて、2003 札幌住環境フェアが開催された。日本銅センターは、「衛生力 水と銅」をテーマにこの展示会に出展。銅管(給水・給湯用)銅樋を中心に、環境にやさしい銅の特性や、高い抗菌効果などをアピールした。また、ブース内ではクイズイベントを開催し、多くの来場者の関心をあつめた。



2003札幌住環境フェア



第35回管工機材設備総合展(東京)



第11回管工機材設備総合展(大阪)

会に出展。目玉のゲームコーナーには多くの人が集まり、わかりやすい銅の説明に、多くの来場者の注目をあつめた。
同時に実施したアンケートにも多くの回答が寄せられた。

東京駅「銀の鈴」は銅製だった！

待ち合わせ場所として有名な東京駅八重洲中央口の「銀の鈴」。昭和四十三年に誕生してから、現在は三代目が活躍している。この銀の鈴は、実は銅でできている。鋳銅に銀箔を施して鈴は作られている。重さは八〇kg。ガラスケースに大切に吊るされている。

銀の鈴は一時、広場の改装の際に、古くてふさわしくない」と広場の外の通路に移動されたが、広場で待てばいいのか、通路にある銀の鈴前で待ったらいいいのか、混乱する利用者が多く、このほど広場に戻ってきた。東京駅の目印として、銅製の銀の鈴は今日も光輝いている。



銀の鈴

材厚0.6mmの重厚感と安心感 新・雨といが登場

このほど、(株)タニタハウジングウェアから新しい雨とい「カサブランカ」が登場した。この雨といは、地球環境に配慮し、環境にやさしく、リサイクル性にすぐれた銅を使用。板厚が〇.六mmと、重厚感と安心感を持つ製品となっている。



カサブランカ

また、建物を選ばない排水量、考え抜かれた構造設計による抜群の施工性さらに雨といにとって最も重要な耐久性・耐候性を備え、厳しい環境にも耐える高い品質を有している。問い合わせ先 (株)タニタハウジングウェア本社・東京営業所
〇三二三九六八一三四

『銅と銅合金第四十二巻』 銅及び銅合金技術研究会より刊行

このほど、銅及び銅合金技術研究会は、銅と銅合金・第四十二巻(A4判、三五九頁)を刊行した。同誌は、昨年十一月、千葉県木更津市で開催された講演会のパネル討論二件、一般研究論文六十七件を集録している。金属理論や製造技術をはじめ、新銅合金など幅広い分野をカバーしており、伸銅技術に関する最高、最新の報告書として海外でも広く購読されている。申し込み先 日本伸銅協会内「銅及び銅合金技術研究会」事務局 〇三三八三六八八〇一



銅と銅合金・第四十二巻

本格派の味が人気 純銅製炊飯釜

このほど、新光金属(株)から登場した純銅製炊飯釜「こはんはどうだ」は、熱伝導性にすぐれた銅を使用し、九八以上の高温を維持し、すばやくご飯を炊き上げる。その炊き上げ時間は、約十分(ガスコンロ使用時)で、約五〇分かかる電気炊飯器や約二十五分かかるアルミ釜に比べ、格段に早い。熱伝導性にすぐれた銅により、高温でいっしょに炊き上げ、ふっくらとおいしい飯が煮あがる。「もうとおいしい飯が食べたい」という本格派の人々に人気を博している。

問い合わせ先 新光金属(株)
〇二五六一六三二五四八



こはんはどうだ

編集手帖

リレー随想「青銅の魔力」展開がエトクです。江戸川乱歩の世界が銅の魔力ならぬ魅力をこう表現できるのは驚きました。今回の取材ネタ 金属「銅」の魅力をちよつと角度を変えてちりばめてみました。味覚の秋、ダイコン・ウサビのシャッキリまるやかさが、お刺身などの素材の味を引き立ててくれるその秘密は「純銅おろし金」にあります。ぜひ読まして「賞味を。小生一足お先に日鉱金属・佐賀製錬所取材の際、地元・本場の「関アジ・関サバ」を入味と辛さのおろしでいただきました。役割とはいえず感謝。

編集者アスク 斉藤久寿(日本銅センター)

「銅」誌編集委員会

委員長 増木孝美(古河電工)
委員 鉦山/増田勝彦(三菱マテリアル)
高橋涉(パパンフィック・カパー)永田禎彦(日本鋳業協会)伸銅/富家将之(三菱伸銅)馬場一憲(神戸製鋼)松坂和則(日本伸銅協会)電線/瀧本英樹(フジクラ)宮田充(日本電線工業会)

編集

(株)ピー・アル・オー

「銅」第二五七号

平成十五年十月二日発行

発行人 横井弘明

発行所・社団法人日本銅センター

東京都台東区上野二〇・〇〇(うさぎやビル5F)

TEL/〇三(三三三三)八八二

FAX/〇三(三三三三)八八二

関西事務所

大阪市北区堂島浜二・二九(古河大阪ビル)

TEL/〇六(六三三三)五四七

FAX/〇六(六三三三)五四七

無断転載禁